

# 製品を通して、そして製造プロセスを通して 環境課題の解決に取り組んでいます

モノづくりの会社にとって環境への配慮、環境施策は、社会に貢献しお客様の信頼を得るためには不可欠なものです。日東精工グループでは中期経営計画「Mission G-second」のなかで、成長戦略の一つ、Growth#2としてこの環境を戦略にしっかりと見据えています（右下の図ご参照）。今号では当社の環境への取り組みをご紹介します。

たとえば昨秋、環境負荷低減型単軸自動ねじ締め機「FM515VE」を発売していますが、当社ではファスナー事業、産機事業、制御事業などにおいて、新製品はもちろん、既存製品についても軽量化や省力化、省資源化を随時進め、環境に配慮した対応を標準化しています。また有機溶剤を使用しないマイクロバブル洗浄装置「バブ・リモ」は自動車分野などで高く評価されているロングセラーですが、ほかにも環境に配慮した製品として、昨年プレスリリースしたように、イーセップ社と共同で同社の「ナノセラミック分離膜技術」と当社保有の「プラント製作・流体制御・防爆」技術を融合させた「有機溶剤リサイクル回収装置」の開発を目指しています。当社の製品を通してお客様の〈環境課題の解決〉に貢献していければと願っています。

そして製品だけでなく、製品をつくる過程や工

場でもCO<sub>2</sub>の削減を目指すことが大切です。日東精工グループでは、国内外の工場の屋根にソーラパネルを設置したり、LED照明に切り替えたり、工場のレイアウトを変更するなどの改善を進めることで、電力や運送におけるCO<sub>2</sub>削減を図り、カーボンニュートラル化を目指しています（2019年比に対して2025年度は12%のCO<sub>2</sub>削減を目標にしています。そのための年度目標として2023年は4.5%減としていましたが、この数字は達成しています）。

このニュースレターなどで今後も環境配慮の新製品や環境への取り組みを随時、ご報告してまいります。企業として大きな目標数字を掲げるベースにあるのは、従業員の環境意識です。当社では地域の大きなお祭りの翌日は従業員が清掃活動に参加したり、あるいは道行く人の心がなごむように工場敷地の道路に面した空き地に花を植えた



環境負荷低減型  
単軸自動ねじ締め機「FM515VE」

## Growth #2 / 環境戦略

- ▶ 事業活動全てにおける環境への対応
- ▶ 持続可能な社会につながる地方創生活動
- ▶ 経営改善につながるガバナンス体制の強化

2025年度 CO<sub>2</sub>削減率12% (2019年比)

2025年度 廃棄量 原単位5%減 (2019年比)

CO <sub>2</sub> 削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生エネルギーへの切替</li> <li>太陽光発電設置</li> <li>生産工程の見直し</li> </ul>	2025年:CO <sub>2</sub> 削減率12% 2030年:CO <sub>2</sub> 削減率30% <small>(2019年比)</small>	2050年、カーボンニュートラルへ
廃棄量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>工程内良品率、加工効率の向上</li> <li>リサイクル、リユースの促進</li> <li>ペーパーレスの推進</li> </ul>	2025年:原単位5%減 (2019年比)	
お客さまへのESG支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品別の取組み (冷間圧造部品・産業機械・医療機器)</li> </ul>	お客さまのESG活動を支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽量化に対する品質対応</li> <li>ロボット、搬送システムの電力削減</li> <li>働き方改革 etc...</li> </ul>
地方創生	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会という環境に4つの視点からアプローチ</li> </ul>	環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興</li> <li>次世代育成</li> <li>健康増進</li> </ul>

りするなどしていますが、こういった小さな積み重ねも大切にしながら、従業員一人ひとりの環境意識を高めてまいります。



当社の「統合レポート2023」で、より詳しい内容をご覧ください

昨秋、産機製品を製造する全長200mの城山工場組立棟屋根のほぼ全面に太陽光発電設備を新設。今年度中にファスナー八田工場にも設置し、国内4工場すべてでクリーンエネルギー100%を目指しています。海外ではマレーシアに次いで2月よりタイ工場でも稼働を開始



## 新製品情報 [NEW PRODUCT]

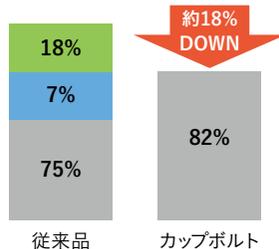
### フランジ型ゆるみ止めボルト「カップボルト™」をリリース ～シナジー効果でラインナップが広がりました～

当社では「カップスクリュー®」というねじとばね座金、平座金を一体成型した製品を開発、製造販売していますが、今般、その技術を応用したフランジ型ゆるみ止めボルト「カップボルト™」を新発売しました。「カップスクリュー」が呼び径3～6ミリの小さなねじであるのに対し、「カップボルト」は呼び径が8～16ミリの太モノ（ボルト）で、自動車分野をメインにしていた「カップスクリュー」に新たに「カップボルト」が加わることで、住宅、建築機材関連までさらに用途を広げることが可能となりました。

ボルト、ナットなどを得意とする協栄製作所がM&Aで日東精工グループに加わったことで、既存の製品「カップスクリュー」を応用した「カップボルト」の開発につながったものです。製造については協栄製作所で受け持ち、販売は日東精工と協栄製作所の両社で担当していきますが、これは日東精工グループの成長戦略のもと、シナジー効果の表れのひとつといえます。



「カップボルト」は、頭部に一体成形されたフランジ部の座面が、首元から外周に向かうテーパ状のアンダーカット部と、このアンダーカット部に連なって最外周部に位置する平面部とからなるカップ形状になっています。締結時には、ここが弾性変形してばね座金のように作用するため、ばね座金・平座金を用いなくても強固なゆるみ止め効果が得られます。また、この部品点数の削減により、従来比約18%の軽量化（\*当社調べM10×40を想定）を実現しました。



より詳しい情報は  
こちらから

## 協働ロボット用ねじ締めユニット EU市場での展開が可能に!

日東精工は東アジア、東南アジア、そしてアメリカを中心に海外展開を図ってきましたが、昨年、グループ会社の「日東精工アナリテック ヨーロッパ」をドイツに設立し、欧州市場へも本格参入しています。当社「協働ロボット用ねじ締めユニット：PD400シリーズ」についても、欧州市場から要望の多かったユニバーサルロボット用ならびにテックマンロボット用の2機種をCEマーキング対応仕様にアップデート。市場のリクエストにお応えできるようになりました。2月1日から販売を開始しています。



詳しい  
プレスリリースは  
こちらから

ユニバーサルロボット用  
PD400UR-M  
(マグネット仕様)

テックマンロボット用  
PD400TM-V  
(バキューム仕様)

※マグネット仕様、バキューム仕様いずれもCEマーキング対応仕様です。

## 受験生応援ねじ、本年度分 すべてを発送しました

当社のゆるみ止めねじ「ギザタイト」を特別加工して、ゆるみにくい、集中力持続のシンボルとして毎年受験生にプレゼントしています。今年度も募集を3回に分けて受け付け、2月の最終受付分の発送も無事終了しました。今年度は個人応募、学校関係等からの応募合わせて5,382個をプレゼントしました。



当社本社をおく地元あやへの綾部高校には直接お届けし、その様子はあやベ市民新聞にも掲載されました



## NITTOSEIKO'S SDGS (サステナビリティ経営推進)

### 障がい者の技能を競う「アビリンピック」に協賛しました

当社では障がい者雇用の特例子会社日東精工SWIMMYを設立するなどし、多種多様な人たちが、明るく前向きにやりがいをもって働ける環境づくりを進めています。そして、これが一企業内にとどまるのではなく、広く社会に広がっていくことを願っています。

2月10日に「第21回アビリンピック京都大会」が開催され、当社もこの大会に協賛をいたしました。「アビリンピック (abilitympics)」とは「アビリティ (ability・能力)」と「オリンピック (olympics)」の合成語です。障がい者が技能労働者として社会に参加できる自信と誇りがもてるようにその職業能力の向上を図るとともに、障がい者の職業能力に対する社会の理解と認識を深め、その雇

用の促進などを図ることを目的として職業技能を競う大会です。当社、そして日東精工SWIMMYの従業員も参加。京都府立京都高等技術専門校、京都府立京都障害者高等技術専門校を会場に、DTP、ワード・プロセッサ、表計算、ホームページ作成、ビルクリーニング、喫茶サービス、パソコンデータ入力、紙箱組立 (貼り箱)、電子機器組立などの技能、技術を競い合いました。



当社経営企画室の本田秀一が表計算で、日東精工SWIMMYの川北真司がワード・プロセッサ部門で銀賞に輝きました。なお当日は参加者全員に協賛品として当社オリジナルスポーツタオルを配布しました

【誠の言霊】  
⑪

# 今日の発句は明日の辞世

荒賀誠

「古

池や蛙飛び込む水の音」。

これは松尾芭蕉の有名な俳句ですが、もともとは、ある和尚から悟りの境地を問われたとき、たまたま蛙がドボンと飛び込んだ音を聞いて即座に「蛙飛び込む水の音」と応えた、この禅問答が句になったものだろう。下の12字が最初にでき、そのあと上の5字、「五月雨や」「しずけさや」などの候補もあるなか、結局「古池や」に落ちついたといわれています。森羅万象、一切の現象のすべてを自分のことと悟った芭蕉の代表句のひとつですね。

さてこの松尾芭蕉が、病の床に伏し臨終間近となったとき、弟子のひ

とりから辞世の句を求められ「今日の発句は明日の辞世」と応えたといえます。毎日読む句に全精神を注ぎ込んでいるから、今日死ねば昨日の句が辞世、明日死ぬなら、今日読んだ句が辞世の句、自分の句に辞世の句でないものはないというわけです。明日のことに煩わされず、今あるものに感謝し、全身全霊を打ち込むことが大切と示唆する逸話です。

自分の仕事に「いのちをのせる」「いのちを吹き込む」、これぞまさにホンモノ、「プロ中のプロ」でしょう。今ある仕事一つひとつに、丁寧に向き合っていきましょう。

題字・文 代表取締役社長 荒賀誠

※「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」は辞世を意図したものではないが、芭蕉の生涯最後の句で、一般に辞世の句とされている

## 「幸せ」を見つけるヒント ——— 3月

### 確固たれ、かしこくあれ、協力し合え

企業においても、まちづくりにおいても女性の視点、女性が活躍する場が大事なことはいうまでもありません。当社が本社をおく綾部はグンゼ創業の地で「表から見れば工場、裏から見れば女学校」といわれるほど女子教育に力を注がれていました。

そして、また綾部出身者には吉川茂仁香というカトリックの修道女もいます。聖心学院の校長として美智子上皇后陛下や国連難民高等弁務官を務めた故・緒方貞子さんなどに影響を与えた方で、東京だけでなく、静岡県の不二聖心女子学院や札幌市宮の

森の札幌聖心女子学院の初代校長も務められ、女子ミッション教育のいしづえを築いたおひとりです。

このマザー吉川の根本にあったもの、それは聖心会のマザー・エリザベス・ブリットのことば「Be independent, Be intelligent, Be cooperative.」（確固たれ、かしこくあれ、そして協力し合え）です。

じつはこの「ことば」は、まちづくりにも当てはまるものでしょう。「らしさ」を忘れず自立し、かしこくもあり、協調することも忘れない……。地域を元気にするキーワードとして、これからもずっと大切にしていきたいものです。

日東精工代表取締役会長  
綾部商工会議所会頭

材木正己

